

第193回（平成31年2月17日施行）

## 上級 商業簿記

問題1は、特殊商品売買の中の割賦販売に関する問題です。ここでは、原価率の算定、割賦販売掛金の計算、繰延割賦売上利益の計算などの能力が問われています。割賦販売という販売形態は過去のもののように思えるかもしれませんが、じつは、スマートフォンの販売などに用いられており身近なものであるため、あらためて問うこととしました。

問題2は、資産除去債務に関する問題です。除去対象の資産の取得時における仕訳、毎年の資産除去債務の調整に係る仕訳及び減価償却の仕訳、除去時の仕訳についての知識が問われています。さらに、耐用年数の途中で除去費用の見積もりを変更した場合の対応について問われています。

問題3は、決算整理前残高試算表から閉鎖残高勘定を導き出す問題です。論点としては、銀行勘定調整、貸倒引当金、有価証券、売価還元法、減価償却、社債、退職給付、経過勘定、新株予約権など基本的なものばかりであり、損益勘定については今回は問うていませんので、これまでよりも時間的に余裕をもって解答できたのではないのでしょうか。

第193回（平成31年2月17日施行）

## 上級 会計学

問題1は、会計基準に関する全般的な正誤問題です。1. は企業会計原則第3貸借対照表原則一但し書、2. は企業会計原則注解【注11】、3. は、税効果会計に係る会計基準第三・2、4. は株主資本等変動計算書会計基準第6項、5. は自己株式等会計基準15項、6. は棚卸資産評価会計基準第7項、7. は会計変更修正会計基準第20項・第62項、8. は包括利益表示会計基準第5項、9. は連結財務諸表会計基準注解【注4】、10. は外貨建取引等会計処理基準第三・3に関するものです。『全経簿記上級商業簿記・会計学テキスト(第6版)』の関連箇所を参照してください。

問題2は、個別貸借対照表における純資産の部に関する問題です。純資産の部の中の区分の具体的名称を問うた上で、特に、その他資本剰余金の発生原因には自己株式処分差益や資本金・資本準備金減少差益などがあることと、それが会計期間末において負の残高になった場合の取扱い(自己株式等会計基準第12項)について問うています。『全経簿記上級商業簿記・会計学テキスト(第6版)』の関連箇所「X 純資産の会計」(129頁以下)を併せて参照してください。

問題3 連結会計に関する記述問題です。

問1は、連結財務諸表の作成において連結会社相互間の取引高を相殺消去する理由を、問2は、子会社であるある会社の株式売却後も当該投資先が依然として子会社であったならば、当該子会社株式の処分差額が、資本剰余金になる理由を問うています。問題1については、連結会社相互の取引は内部取引であり、連結財務諸表には連結企業集団の外部者との取引のみが記載されるべきである点を理解できているかどうかを問うています。問題2については、非支配株主との取引が資本取引である点を理解できているか否かを確認しています。『全経簿記上級商業簿記・会計学テキスト(第6版)』の関連箇所「XV 連結財務諸表」(189頁以下)を参照してください。

第193回（平成31年2月17日施行）

## 上級 工業簿記

問題1は、部門別計算を含んだ個別原価計算です。従来の問題では、製造間接費予算を中心とした部門別計算の2次集計方法（直接配賦法、階梯式配賦法など）と、製造部門の予定配賦率や予定配賦額の算定が問われてきましたが、その後のプロセスにあたる補助部門費勘定や製造部門費勘定での原価差異の把握については問われてきませんでした。そこで、本問では、補助部門費勘定での原価差異の把握に関して、典型的な処理方法（予算許容額の配賦）を指示した上で、その処理や意義について質問しています。これにより、部門別計算を含んだ製造間接費会計のプロセス全体とその内容の理解度を確認することを意図しています。また、従来の問題では、個別原価計算における仕掛品勘定があまり問われてきませんでした。そこで、本問では、基礎力の確認のために仕掛品勘定の記入について質問しています。

問題2は、非累加法の基本的な計算問題とこれに関わる語句問題です。非累加法は、工程別計算の重要な論点ですが、最近では出題されていないため、今回の対象としました。また、計算結果について客観的に評価できるかどうかを把握するために、関連する語句問題を設けています。これにより、学習の幅（多くの項目を学習できているか）と深さ（学習した項目を十分に理解しているか）を把握することを目的としています。

第193回（平成31年2月17日施行）

## 上級 原価計算

問題1は直接原価計算の基本的な問題です。損益分岐点売上高、安全余裕率、経営レバレッジ係数などによる利益のシミュレーションができるかどうかを問うています。論述問題では営業外収支が利益のシミュレーションに与える影響を理解しているかを問うています。

問題2は設備投資の経済性計算の基本的な問題です。キャッシュフローの予測において、会計数値からの毎期のキャッシュフロー予測、設備除却時のキャッシュフローを理解しているかを確認しています。また、投資の経済性計算における回収期間法、単純投下資本利益率法、正味現在価値法（NPV）の方法を理解しているかを問うています。